# 8-8 インデックス

### 8-8-1 インデックスの概要

インデックスを付与することで、それを指定すれば、紐づけられているデータも一緒に引き出すことができる。

逆に付与されていない場合には、目視で確認するしかなくなってしまう。だから、インデックスは便利なのである。

尚、教科書ではID=NNNと記載してあるが、このNNNは任意の3桁の数字(456 など)を表している。

#### 8-8-2 インデックスの種類

一般的に用いられるインデックスは、B-Treeである。

### 8-8-3 インデックスの作成

usingで使用するインデックスの種類を指定している。

インデックスの削除は、下記のように行う。

```
Query Editor Query History

1 drop index tbl_c1_idx;

Data Output Explain Messages Notifications

DROP INDEX

Query returned successfully in 123 msec.
```

## 8-8-4 マルチカラムインデックス

複数の列で1つのインデックスを作成することも可能である。

```
drop table tbl;
create table tbl (c1 int, c2 int, c3 text);

create index m_idx on tbl (c1, c2, c3);

Data Output Explain Messages Notifications

CREATE INDEX

Query returned successfully in 150 msec.
```

#### 8-8-5 関数インデックス

関数や式の結果をインデックス化する。

1番目はc1とc2を「-」で連結した結果のインデックス、2番目はc1を大文字にしたインデックスを作成している。

### 8-8-6 部分インデックス

必要なデータのみにインデックスを付与する。不要なデータにはインデックスを付与しない。

```
Query Editor Query History

1     drop table tbl;
2     create table tbl (c1 int, c2 text);
3     4     create index tbl_idx on tbl (c1) where c1 < 100;

Data Output Explain Messages Notifications

CREATE INDEX

Query returned successfully in 119 msec.
```

インデックス作成の範囲を、「where」で指定しただけである。